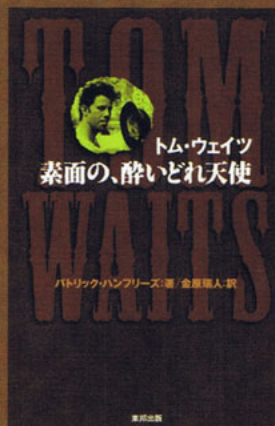


A melting pot of music (音楽の^{るっほ}坩堝)

地球上には様々な人種が暮らしているように、音楽にも様々なジャンルがある。そして、どんな音楽でもいいものはいい。
The Walker's では、ジャズ以外の素晴らしい音楽もジャンルを超えて世界に発信していき、自信を持って推薦していきたい。

酔いどれ天使 ～トム・ウェイツ【Tom Waits】



トム・ウェイツ 素面の、酔いどれ天使
東邦出版 定価(本体2,600円+税)
ISBN978-4-8094-0705-5

本名はトーマス・アラン・ウェイツ【Thomas Alan Waits】。1949年12月7日、米国カリフォルニア州ボモナで生まれたシンガー・ソングライターにして、個性派俳優として役者業もこなすトム・ウェイツ。

1950年代以前のブルースやジャズなどを基調とした楽曲～煙草と酒で潰れたような独特のしゃがれ声にジャジーなピアノ～そして、個性的なステージ・パフォーマンスでも人気を博し、「酔いどれ天使」「酔いどれ詩人」「言葉の魔術師」「音の錬金術師」「ロック詩人」「鬼才」など、数々のニックネームを持つアーティストだ。

そんなトム・ウェイツは“ジャズ”の匂いも強く感じさせる。10代の頃はラジオから流れるウルフマン・ジャックの番組を毎晩聴いたというものの、ヒッピー・ムーブメントを煽るバンドよりも、マレイニーやベッシー・スミスのような古いジャズ・シンガーの方が好みで、ルイ・アームストロングやナット・キングコールなどに父親の姿を見ていたと語る。

2nd アルバム『土曜日の夜』(1974年作品)、3rd アルバム『娼婦たちの晩餐～ライヴ』(1975年作品)を聴けば、その“ジャズ”の匂いを体感してもらえるが、4枚のアルバム『スモール・チェンジ』(1976年作品)では、50～60年代にかけてウエスト・コースト・ジャズを代表する名ドラマーとして大活躍したシェリー・マンや秋吉敏子の夫としても知られるサクソのルー・タバキンを起用。また、ウエスト・コースト・ジャズの名テナー・マン＝ティ・エドワーズのアルバム『ミシシッピ・ラッド』(1991年作品)に2曲ヴォーカルで参加し、同アルバムでは本誌『The Walker's』由来のジャズ・ベースマン＝リロイ・ヴィネガーとの共演も果たしている。

そんなトム・ウェイツという男の全貌を知る上で最適な書籍が届けられた！ デビュー35周年記念出版として、この5月に発売されたばかりの『トム・ウェイツ 素面の、酔いどれ天使』【東邦出版 パトリック・ハンフリーズ(著) / 金原瑞人(訳)】だ。トム・ウェイツの人生・音楽・生き様・名言・迷言が、貴重なスチール写真と共に500頁を超える濃い内容で登場！！「これを読まずして、トム・ウェイツは語れない！」と言っても過言ではなく、直ぐにでもトム・ウェイツのアルバムが聴きたくなること必至の“最新トム・ウェイツ伝説”だ。

Tom Waits Official Website [http://www.tomwaits.com/]



Closing Time / Tom Waits
クロージング・タイム / トム・ウェイツ
ワーナーミュージック・ジャパン: AMCY-3173

“酔いどれ天使”トム・ウェイツの記念すべきデビュー・アルバム。イーグルスが取り上げた名曲「オール'55」も収録。トム・ウェイツ23歳の時、1973年の作品。



Orphans / Tom Waits
オーファンス / トム・ウェイツ
ワーナーミュージック・ジャパン: EICP-736/B

トム・ウェイツの7年ぶりのオリジナル・アルバムにして、初の3枚組！「Brawlers」「Bawlers」「Bastards」の3枚に新曲30曲を含む計54曲を収録。2006年の作品。



The Heart Of Saturday Night / Tom Waits
土曜日の夜 / トム・ウェイツ
ワーナーミュージック・ジャパン: AMCY-3042

トム・ウェイツの個性と魅力満載の2ndアルバム。ジャズ・テイスト溢れる「ダイヤモンド・オン・マイ・ウインドシールド」など初期の名曲がズラリ！1974年の作品。



Mississippi Lad / Teddy Edwards
ミシシッピ・ラッド / テディ・エドワーズ
ユニバーサル: POCJ-1084

西海岸ジャズの名テナー・マン＝ティ・エドワーズの1991年の作品。トム・ウェイツが「リトル・マン」「アトム・ノット・ユア・フル・エニモア」の2曲で参加。渋い！